

神楽通信

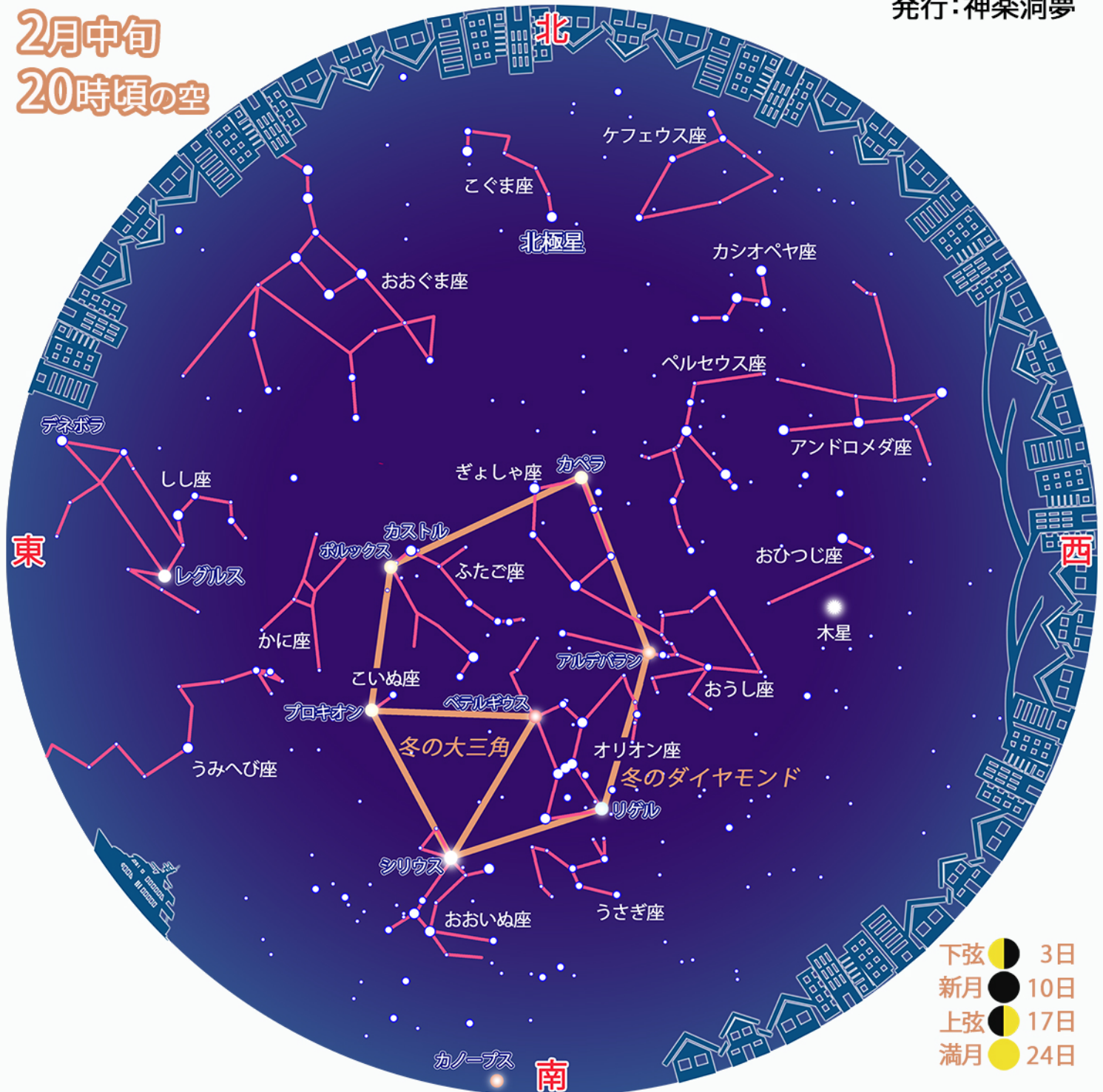
No.96

2024年

2月号

発行: 神楽洞夢

2月中旬
20時頃の空



下弦 3日
新月 10日
上弦 17日
満月 24日

2月に入ると日暮れが遅くなってきたことを実感します。今月4日には「立春」を迎え、暦の上では春に入りますが、寒さは今が最も極まる頃です。そんな寒空を見上げると、豪華絢爛な冬の星々が南の空に煌めいています。六つの1等星で作られる大きな「冬のダイヤモンド」、そして南の低い空にはシリウスに次ぐ明るさをもつカノープスを見つけることができます。

星空に輝く一輪の薔薇

バレンタインのこの時期、花屋さんに並ぶ真紅の薔薇が目を惹きますが、実は星空にも大輪の薔薇が咲いています。

およそ4600光年彼方に存在する大きな“薔薇”の正体は、いっかくじゅう座にある「ばら星雲」の名で知られる巨大な星雲です。

中心には生まれたばかりの星の集団である散開星団（NGC2244）が存在し、なかには太陽よりはるかに大きな質量をもつ星も確認されています。

その星たちから出る恒星風（星から噴き出る電気を帯びた粒子の流れ）や紫外線などが周囲のガスを吹き飛ばし、中心の空洞部分をつくっていると考えられており、周りのガスの拡がりによって地上の私たちからは薔薇の形として見えます。

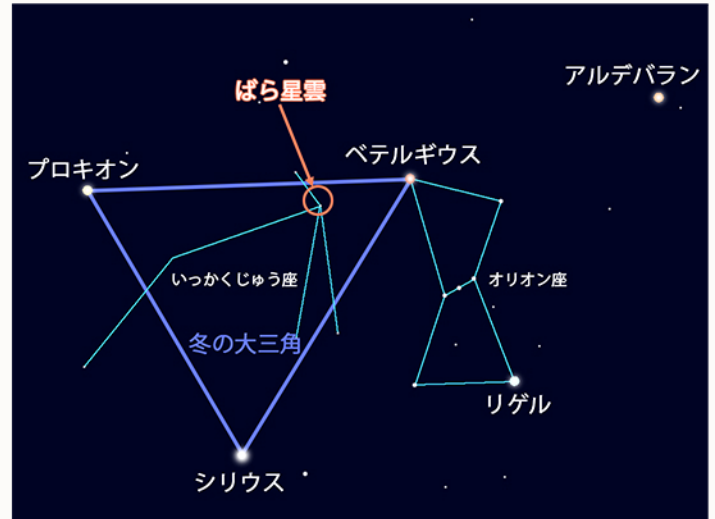
また、ばら星雲の「花弁」の部分をよく見ると、小さな黒い影がいくつも見られます。

これは「グロビュール」と呼ばれる塵やガスが密集したところで、その内部では複数の星が生まれていることが分かっています。

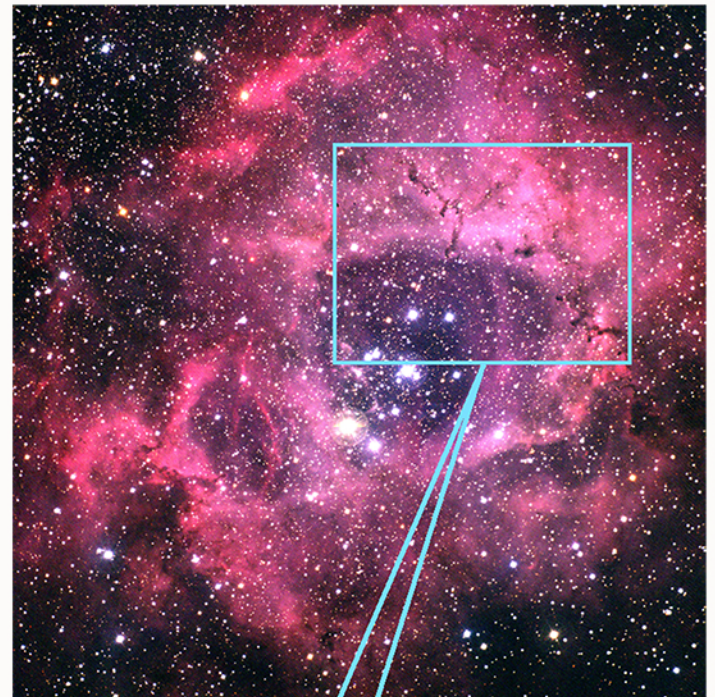
しかし、望遠鏡や双眼鏡を用いても、残念ながらこの星雲を薔薇の形として捉えることはできません。

それは、この星雲が出す光の波長が、目に見える光と赤外線の間付近にあるためです。ばら星雲は星雲の天体写真として撮影してこそ美しく咲き誇る“華”なのです。

2月中旬21時ごろの南の空



深紅に広がる「ばら星雲」の姿



画像：N.A.Sharp/NOIRLab/NSF/AURA